

# 平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 9	公益目的事業 17
主査名	文 世一 京都大学大学院経済学研究科教授	
研究テーマ	公共交通システムの設計が都市構造に及ぼす影響	
<p>多くの都市では、自動車の普及により土地利用の郊外化が進展し、その結果として中心市街地の衰退が問題となっている。ヨーロッパの多くの都市では、LRT など公共交通システムの改善を通じて都市構造のコンパクト化を図り、中心市街地の活性化に成功している。本研究では、都市経済学の理論に基づいて公共交通システムの設計が都市構造のコンパクト化に及ぼす効果を分析し、社会的に望ましい公共交通システムのあり方を明らかにする。具体的な研究課題は次の通りである。</p> <p>(1) 公共交通整備政策に関する資料調査</p> <p>日本の国内および国外の都市における都市公共交通機関の整備制度について資料を収集するとともに、都市構造と公共交通のサービス水準に関するデータを整備する。これらの情報は、下のモデル分析における政策変数の定式化の際に参考とする。またモデルの数値計算を行う際のパラメータ設定にも用いられる。</p> <p>(2) 公共交通システムの設計と住宅立地</p> <p>伝統的な都市経済モデルでは、交通費を距離に比例するものとして表していた。本研究では、公共交通システムの設計に関わる変数（駅の数、路線長、運賃体系）の関数として交通費を定式化し、住宅立地と土地利用の均衡を求めるモデルを開発する。さまざまな運営形態（民営、公営）のもとでの均衡土地利用と、社会的厚生を最大化するよう公共交通システムを設計した場合の最適な土地利用を比較する。さまざまな制度的、社会的制約の下で最適に近づけるための次善の政策手段についても検討する。</p> <p>(3) 公共交通システムの設計と商業立地</p> <p>郊外のショッピングセンターと中心市街地の商業集積地間の消費者の選択をモデル化し、公共交通システムのデザインが中心市街地の活性化に及ぼす効果を分析する。</p>		